

令和 3 年 3 月 4 日

保護者様

大阪府立藤井寺支援学校
校長 綿谷 輝昭

令和 2 年度 第 3 回学校運営協議会について（報告）

令和 3 年 2 月 26 日（金）に開催致しました学校運営協議会の要旨を報告致します。

会長：北川末幾子（大阪府立大学非常勤講師）

副会長：中島智子（大阪大谷大学特任教授）

委員：吉松崇（藤井寺市立藤井寺小学校校長）

竹澤住江（卒業生保護者しゅらの郷福祉会理事支援センターしゅらの郷管理者）

松山一雄（藤井寺市河北地区区長）

根田真理子（PTA会長）* 敬称略

令和 2 年度学校評価、令和 3 年度学校経営計画についての委員からのご意見、御助言

I 「令和 2 年度学校評価」について

1 開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進について

(1) 安心に配慮した医療的ケア実施体制の構築について

- 個々の児童生徒の障害の状況と個々の医療的ケアの状況を十分ふまえた実施が必要。安全安心な医療ケアを実施にあたり多くの研修に参加する取組は、非常に良い。

(2) 事故の未然防止、体罰・いじめの根絶について

- 引きつづきヒヤリハットの分析を実施し、いじめ対策委員会の充実を望む。
- 保護者や教職員からの回収率の増加で、更に安心安全につながる。
- ヒヤリハットは事故防止の入り口となると思われる、事故防止の視点から分析することは大事

(3) 防災体制の確立について

- 地域との連携を今後もより一層を望む。
- バス乗車中の安全確保について、各市町村への依頼、避難場所の確保だけでなく市町村の理解を得ることが非常に良かった。

(4) 学校ホームページの充実について

- 楽しませていただいる。
- ホームページを拝見し、校長先生が更新していらっしゃるが多いと思った。誰がい

つ更新するかというシステムが必要ではないかと感じる

- 週1回以上の更新や、自己診断での「HPを見たことがある」の項目の肯定的評価が大幅に上昇したことは、よいことと思う。来年度もさらに上昇するように取り組みの発信が必要。

2 特別支援教育の専門性と授業力向上を基盤とした学校力の向上について

(1) 支援教育の専門性と授業力向上のための校内体制の構築について

- アセスメントの充実ということで、全児童へのチェックリストの実施や「身体状況把握シート」の活用など、個人の支援について、かかせないものだと思う。

(2) ICT 機器、視聴覚機器など、支援機器の効果的な活用推進について

- 取り組みはもとより、実践内容を外部へ発信することも意識的に取り組んでおられると思う。支援学校で率先していただくことに、大きな意味があると感じる。
- 視線入力装置やタブレット端末等を全児童生徒に対しての活用や情報発信について、素晴らしい。

(3) 教職員の心身ともに健康で働くことができる職場環境づくり「働き方改革」について

- より良い人間関係づくりを望む。
- 教職員の方々の声をしっかり把握していただいていると思う。回収率がもう少し上がれば、と思う。
- 新型コロナウイルスで、先生方も感染しない、させないと今も気苦労が絶えないと思う。そのうえ、仕事量、人間関係でストレスを感じておられたら精神的にもつらいと思う。ぜひ、産業医の先生とカウンセリングしていただいて万全な状態で子どもたちと接していただきたい。
- 全体の集計結果から、今年度の勤務と昨年度を比較して、仕事量を過重に感じるかという問いに「少し楽になったと感じる」9%、「大変楽になったと感じる」1%、この%が増えていくように実態改善が必要。＜健康実態や勤務実態を改善するために＞＜職場の施設、設備等について改善する必要があるとおもわれること＞を読み、すぐにでも対応できることも、ある様に思われる（パソコンの問題など）。

3 南河内地域における支援教育のセンター的役割の充実と地域連携の強化について

(1) 地域支援の拠点として教育相談室の充実と地域支援活動の強化について

- 地域支援の推進拠点として、リーディングスタッフの常駐体制の確保だけでも大変だと思うが、継続もしているのはとても良いことだ。

(2) 障がい者スポーツの普及・啓発について

- パラリンピックの実施について、現時点ではパラ選手の不安があるという話も聞く。このような状況だからこそ、藤井寺支援での取り組みは重要と痛切に感じる。

- 課外クラブとして位置づけられ、よかったと思う。応援する。
- (3) 地域住民との連携について
- 暖かい連携がある。新型コロナウイルスの感染状況によっては難しいかもしれないが、日常的に地域の方々とともに取り組めることが更に増えることを望む。

I 「令和3年度学校経営計画」について

中期目標について、令和3年度学校経営計画、中期目標についてのご承認いただきました。

会長：北川末幾子（大阪府立大学非常勤講師）

副会長：中島智子（大阪大谷大学特任教授）

竹澤住江（卒業生保護者しゅらの郷福祉会理事支援センターしゅらの郷管理者）

根田真理子（PTA会長）*敬称略

めざす学校像、中期的目標へのご意見、ご助言

- めざす学校像と、中間目標が関連していて良い。
 - ・ 安心・安全な学校づくり
 - ・ 専門性のある学校力の向上
 - ・ センターの役割

校内、外部講師を活用し、十分な研修を望む。

1 開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進について

(1)安心に配慮した医療的ケア実施体制の構築について

- 医療的ケアの内容の十分な検討と緊急時の対応を考慮したたうえでの実施を望む。
 - ① マニュアル検討、作成は非常に大切、必要だと思う（昨年のアレルギー情報管理の統一や対応マニュアル検討は行っていたが、マニュアルの作成はどうか。）

(2)事故の未然防止、体罰・いじめの根絶について

- 事故と教育活動・教育活動と体罰を検討してほしい。
- 「必要に応じた機能的な臨時開催」指標としては、どのような場合に臨時開催するのか明確にしてほしい。
- 担当窓口の先生と生徒のコミュニケーションが大切。小・中・高等部の1年生は初めての先生、友だちで不安も多いと思う。特に配慮が必要。いじめ等に関するアンケート、もし年3回学期ごとにされたらどうか。

(3)防災体制の確立について

- 防災に関係する人々との連携の在り方を考える。
- 現実的・より具体的な訓練・研修の実施は必要。

(4)学校ホームページの充実について

- 是非充実してほしいが、限られた先生に負担がかかりすぎない様配慮を。

2 特別支援教育の専門性と授業力向上を基盤とした学校力の向上について

(1)支援教育の専門性と授業力向上のための校内体制の構築について

- 教員が専門性を十分研修するための時間や校内環境が必要
- 「身体状況把握シート」を整形外科検診だけでなく、PT との連携を加えたことは非常に良い。

(2) ICT 機器、視聴覚機器等、支援機器の効果的な活用推進について

- 大学や工業高等専門学校等との共同研究、支援機器等の開発、活用を望む。
- 昨年に引きつづき、視線入力装置やタブレット端末等を活用した授業、又、電子黒板の活用や、オンライン授業の推進など、具体的な回数の目標設定があげられており、よい。

(3) 教職員の心身ともに健康で働くことができる職場環境づくり「働き方改革」について

- 仕事内容と量の十分検討し、教職員の心の健康、を大切に。
- 「働き方改革」について、具体的に書かれた取り組み計画・内容が達成できること、働きやすい環境づくりを望む。

3 南河内地域における支援教育のセンター的役割の充実と地域連携の強化について

(1)地域支援の拠点として教育相談室の充実と地域支援活動の強化について

- 今後も、地域の支援拠点として頑張ってもらいたい。

(2) 障がい者スポーツの普及・啓発について

- さらに課外クラブとして、充実・発展してほしい。

(3) 地域住民との連携について

- 地域向け学校だよりの発行を期待する。